科目ナンバリング					
授業科目名 <英訳>	神経心理学Ⅰ Neuropsychology I	担当者所属 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授　　月浦　崇		
群	人文・社会科学科目群	分野(分類)	教育・心理・社会(各論)	使用言語	日本語
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）
開講年度・開講期	2024・前期	曜時限	月1	配当学年	全回生	対象学生	全学向

（総合人間学部の学生は，全学共通科目として履修登録できません。所属部局で履修登録してください。）

[授業の概要・目的]

脳の様々な疾患によってヒトの脳が損傷されると，その損傷した領域の違いによって，言語や行為，記憶などの様々なタイプの高次脳機能障害が起こる．本講義では，これらの高次脳機能障害を理解することによって，脳を媒介とした心理メカニズムを理解することを目指す．

[到達目標]

・ヒトのさまざまな認知機能が脳を媒体としてどのように表現されているのかについて，基礎科学としての認知神経科学についての理解を深める．
・脳の疾患によって起こる様々な高次脳機能の障害についての臨床的観点からの知識を習得する．
・脳を介して心の働きを客観的に理解することを通じて，自らを客観的にみつめる力を体得する．

[授業計画と内容]

ヒトの高次な認知機能は脳を媒体としているが，脳が様々な疾患（脳梗塞・脳出血・変性疾患等）によって（局所的に）損傷されると，その損傷領域の違いによって様々なタイプの高次脳機能障害が起こる．その事実は，損傷した領域と障害を受けた脳機能との間の相関関係を我々に示し，そこから脳を媒体とした認知機能のメカニズムを推測することができるようになる．本講義では，様々な高次脳機能障害を解説することによってその病態を臨床的に理解し，そこからヒトの高次な認知機能の基盤となる脳内メカニズムを理解することを目指す．

講義で扱う内容は概ね以下のとおり．以下のテーマについて，１テーマあたり１～２週の授業を行う．順番や番号は目安であり，多少変更する可能性もあります．

１．授業のガイダンスと神経心理学の方法の概説
２．基本的脳解剖
３．視覚認知の障害
４．行為の障害
５．言語の障害①
６．言語の障害②
７．記憶の障害①
８．記憶の障害②
９．感情と情動の障害
１０．前頭葉機能の障害
１１．神経心理学的検査①
１２．神経心理学的検査②
１３．「知・情・意」の神経心理学
１４．まとめ
１５．期末試験
１６．フィードバック（フィードバック方法は別途連絡します）

神経心理学Ⅰ(2)へ続く↓↓↓

神経心理学Ⅰ(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

原則的に，試験（100点）によって評価する．ただし，平常点（5点）を加えることもある．

[教科書]

授業中にプリントを配布する．配布資料についてはKULASISにもアップするので，自習の際に活用すること．

[参考書等]

（参考書）
石合純夫『高次脳機能障害学（第２版）』（医歯薬出版）
山鳥　重『神経心理学入門』（医学書院）
河村満・高橋伸佳『高次脳機能障害の症候辞典』（医歯薬出版）

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に別途指示する．

[その他（オフィスアワー等）]

履修希望者が教室定員を大きく超える場合は履修制限を行う．履修制限の方法は別途指示する．
オフィスアワーについては，KULASISを参照のこと．